

子どもが主人公 学都松本のシンカ

松本市教育大綱

令和4年2月14日



学都松本の主人公は 子ども です

すべての子どもは、かけがえのない存在です。

すべての子どもは、自ら学び、成長していく力を持っています。

すべての子どもは、生まれ育った環境などに左右されることなく、
学びの機会が保障されなければなりません。

すべての子どもが、健やかに成長していく。

すべての子どもが、自由に自分を表現していく。

すべての子どもが、身近な大人の支援を受けることができる。

そして、すべての子どもの違いが、「自分らしさ」として認められていく。

学都松本は、

「すべての子どもにやさしいまち」をめざします。

学都松本のシンカ

子どもは、さまざまな経験を通じて、日々成長していきます。

大人は、子どもの声に耳を傾け、その思いや気持ちを受け止め、健やかな育ちと豊かな学びを支えていきます。

そして、子どもも大人も、生涯を通じて学び続け、ともに成長し、自分らしく生きていくことを叶えていきます。

松本市は、

「子どもを主人公とし、

その学びを地域社会全体で支えること」

を学都松本の根本に据え、先人達が築き上げてきた礎のもと、

「学都松本のシンカ」に挑んでいきます。

これからの時代に必要な力

●予測困難な時代

世界的な気候変動や新たな感染症の出現で、私たちは予測困難な時代の到来を目の当たりにしています。新しい生活様式が模索される中で、情報化や技術革新は加速度的に進展し、社会は大きな転換期を迎えています。ただ、このことは、見方を変えれば、私たちの手で未来を創り出していく好機として捉えることができます。

●非認知的能力への着目

変化の激しい社会を生きていくために、生涯の学びを支える非認知的能力がこれまで以上に必要とされています。非認知的能力とは、意欲、計画性、粘り強さ、忍耐力、自制心、協調性、創造性、コミュニケーション力といった個人の特性として備わっていく資質や能力のことを指します。

●遊育・情動・体験への着目

人は、自分の興味・関心や好奇心に応じて夢中になって遊ぶこと（遊育※）や他者とのコミュニケーションによって心を動かされたりすること（情動）など、さまざまな体験を積み重ねることで、もっと学びたいという意欲が喚起されます。

子どもたちのさまざまな体験の環境を整えていくためには、家庭や学校だけでなく、地域社会が一体となって協働して取り組んでいく必要があります。

※遊育（ゆういく）：将来の生活に必要な基本的な動作をからだや五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）を使った遊びを通じてバランスよく身につけ、子どもの健やかな成長を促すこと

大切にしていこう学びのあり方

子どもを主人公とする学都松本では、
特に大切にしていきたいと考えている学びの視点が3つあります。

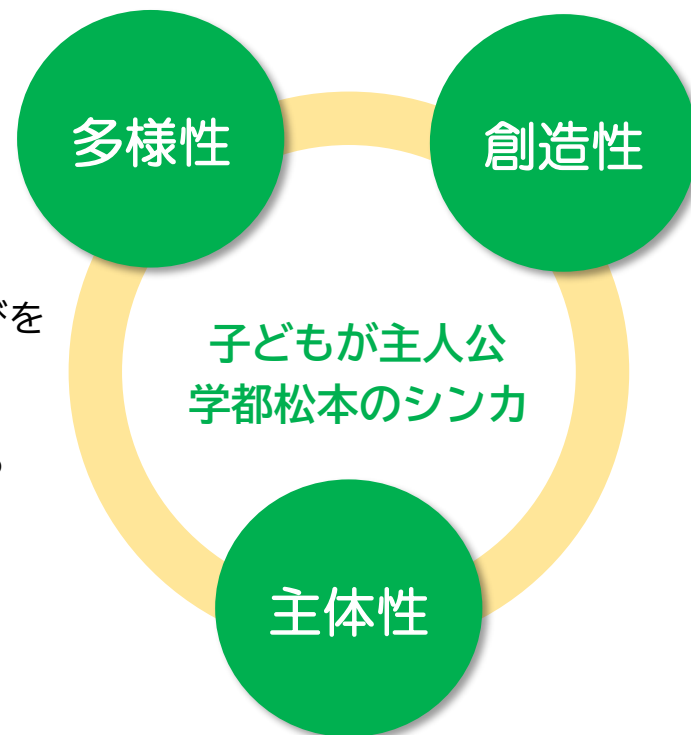
それは、**多様性**、**創造性**、**主体性** です。

多様性 を育む学びとは、一人ひとりの個性や能力を尊重した学びを

創造性 を育む学びとは、未来を切り拓き、新しい価値を生み出す学びを

主体性 を育む学びとは、自己や他者と対話しながら、社会に参画する
学びを指します。

3つの学びの視点には、「これからの社会を創る子どもたちに
大切な価値として受け止めてほしい」という期待と、「学びの
環境を整え支えていく支援者の大人に常に心に留めてほしい」
という期待が込められています。



多様性



一人ひとりの個性や能力を尊重した多様な学び

《子どもに対する期待》

- ・ 自分の可能性を信じること
- ・ 社会・世界や価値観の多様さを理解しながら、共感や思いやりを持って他者と向き合うこと

《大人に対する期待》

- ・ 価値あるかけがえのない存在として、すべての子どもを受け入れ、支えていくこと
- ・ 生まれ育った環境にかかわらず、すべての子どもが学び続けられる機会を保障していくこと

創造性



未来を切り拓き、新しい価値を生み出す創造的な学び

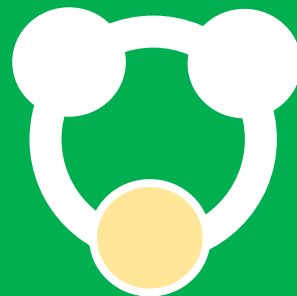
《子どもに対する期待》

- ・さまざまな体験を積み重ねることで、感性を磨き、自らを表現し、他者に伝えていくこと
- ・失敗を恐れずいろいろなことに挑戦し、新たな価値を生み出していくこと

《大人に対する期待》

- ・すべての子どもが、さまざまな遊びや体験を通して経験を豊かにしていく機会を保障していくこと
- ・子どもの個性や能力を見出し、十分に伸ばしていける環境を整えること

主体性



自己や他者と対話しながら、社会に参画する主体的な学び

《子どもに対する期待》

- ・ 自分の趣味・関心や好奇心、「なぜだろう」という疑問を持つことを大切にし、自分自身の学びを深めていくこと
- ・ 地球の過去・現在・未来を広い視野で捉え直し、他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手として物事に関わること

《大人に対する期待》

- ・ すべての子どもや若者を社会の一員として成長できるよう、支えていくこと
- ・ 「挑戦したい」という子どもの思いに寄り添い、認め、支えていくこと

学びの基盤となる基礎学力（知識・技能）を伸ばし、大綱で示した理念と学びの視点を実現していくために、次の施策に重点的に取り組みます。

重点① 子どもを誰一人取り残すことのないシステムの構築

- ・ インクルーシブ教育の推進と特別支援教育の充実
- ・ 家庭・教育・医療・福祉の連携・協働を通じて、子どもの育ちと学びを切れ目なく支援する仕組みの強化
- ・ 多様な学びを地域で支えていく仕組みづくりの推進

重点② 子どもにとって魅力的な学校環境の整備

- ・ 学びの伴走者として個別最適な学びと協働的な学びを支える教職員研修の充実
- ・ 特色ある教育活動を支援するリーディングスクールの実現
- ・ 安全・安心な教育環境の実現（学校設備、学校給食）

重点③ 「遊び」や「体験」を大切にした学びの拡充

- ・ 子どもが安心して自由に遊び、さまざまな体験ができる場と機会の創出
- ・ 子どもや若者が集い、他者と協働的に学ぶことができる場と機会の創出
- ・ 本物の芸術や文化に触れることができる場と機会の創出